

2022.9.6

モールアート 展示会・ワークショップ

課題解決型 - インターンシップ
金城 奈緒



目次

- イベント企画に至った経緯
- 目的
- 内容
- 三つの事業所でのワークショップ
- 最終目標

はじめに

トゥムヌイ福祉会では、利用者の方々の成長や発達に合わせた支援体制を整えており、7つの事業所に分かれています



障害者就労支援施設 イノー



障害者就労支援施設 エール



障害者就労支援施設 アミ



気づき

アート活動が好きな人たちが各事業所に点在している。



2018年 クリエイティブな活動を通して 「生き甲斐のある生涯」
を支援する理念 (**tccw**[tumunui creative co-workers])

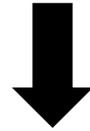


新事業所(米須)設立 現在リフォーム中
完成予定 12月,開業予定 R5 4月

「Art Connect Komesu Coast」

気づき-2

米須の新事業所[Art connect Komesu Coast]が一つの事業所以外の利用者により知られていない。



モールアートの展示会を米須でやる

目的

👍 米須で展示会を開くことによって、トゥムヌイ内外への
新事業所の宣伝になる

✌️ 大人から子供まで楽しめるモールアートで自由な創造や
表現することの楽しさを知る

なぜモールアートなのか？

モールのメリット

- ・必要な材料が少ない（モール、ニッパー）
- ・決まった作り方はなく、自由自在
- ・指先訓練になる
- ・知名度が低いからこそその新しさ
- ・カラフル
- ・触感が気持ちいい
- ・いつでもどこでもできる

モールのデメリット

- ・針金を使用しているため、多少の注意が必要
- ・大量のモールを使用するため、費用がかかる



提案（展示会に向けて）

- ・ 年中行事にモールアートのワークショップを行う

例) ハロウィン、クリスマス

- ・ 各事業所カラーのブーゲンビリアを一人一人に作ってもらって米須事業所内に飾る

はばたき

しいず

ほりす

Ami

エール

イノー

ねらい

- ・ モールにたくさん触れて慣れてもらう
- ・ みんなの製作時の特徴を掴む（得意、不得意）
- ・ アート活動への意識向上
- ・ アートに興味のある人を見つける
- ・ 米須を訪れるきっかけとなる
- ・ 各事業所間の交流（つながり）

ワークショップのシュミレーション

イノー Ami はばたき

それぞれ3つの事業所で、実際にワークショップをやってみた

「まずは、モールアートの楽しさを知ってもらおう！」

①イノー

実施方法

→選抜したメンバーで製作時間を設けて実施した（約2時間）

結果

→少数で行ったため皆さん集中して取り組んでくれた

→コツを掴むスピードが早く、最初に教えた後は各自で自由に創作していた

反省

→用意していたモールドが少なくて製作が中途半端で終わってしまったこと



②はばたき

実施方法

→平日だったため一斉ではなく少数ずつ行った
(約2時間)



結果

→一斉に行うことができなかつたため集中力が途切れる子もいた
→子供ならではの独創性や発想力があり、教えなくても自分達で自由に創作を楽しむことができていた

反省

→大人に比べて初めてのもののへの戸惑いがあるため慣れるまで時間がかかる
→作り方をより単純化して教える必要がある
→人数が多く時間も十分になかつたため、一人一人に教えることができなかった

③Ami

実施方法

→二つのグループに分かれて実施した
(約1時間ずつ)

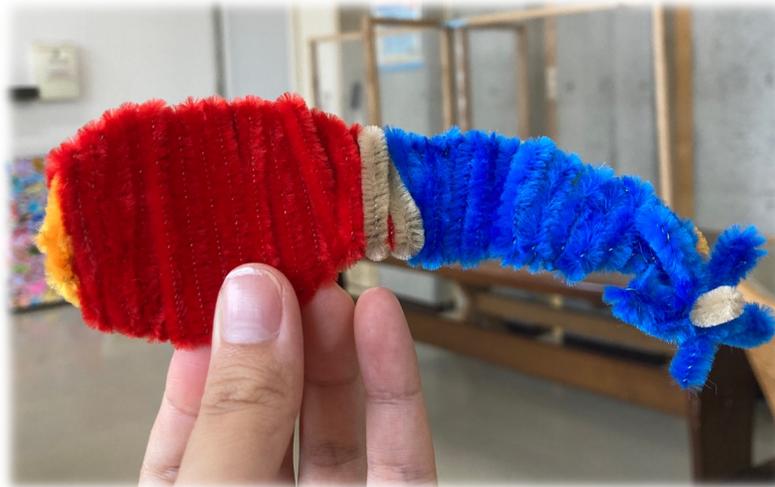
結果

→他の事業所に比べてモールを曲げたりする力加減が困難な様子だった
→指先訓練になっている実感はあった

反省

→実物の見本を用意できなかったためあまり興味を引けなかった
→興味を持ってくれそうな利用者さんとはタイミングが合わずできなかった





改善

- ・一人一人に十分な量のモールを確保する
- ・利用者だけでなく職員も一緒に取り組むことで、教えられるようにする
- ・長期休みまたは、土曜日や祝日などを使ってイベントとしてワークショップを実施する時間を十分に確保する
- ・タイミングの合わない利用者でも取り組めるようにモールを用意しておくなどいつでもできる環境を作る



最終目標



利用者が自由に作った世界に一つしかない
モールアートを商品化する



商品化に向けた課題

- ・ 利用者一人一人の制作の方法にあった商品開発
- ・ 商品制作の作業を分業するかどうかの検討
- ・ 一般人に向けたニーズのリサーチ
- ・ PRと販売方法